

泉の森のいきもの

大塚 隆廣・前田 修

(トトロのふるさと基金 調査部会)

はじめに

調査部会では、幾度も泉の森を調査する機会があったが、いつも足元や頭上や動くものを見つけ、そのたびに話がにぎやかになった。また、調査以外でもウォーキングで泉の森を通り、季節の変化を楽しんでいた。調査の目的とは離れるが、このようなボランティアの気づきは、基金を応援してくださる方々の興味に近いと思った。そこで、この気づきを「泉の森のいきもの」としてまとめ記録するものである。

クロコノマチョウ (*Melanitis phedima*)

前田 修

2020年11月、低灌木や巨大になったアズマネザサに行く手を遮られながら、ほの暗い未整備のトトロの森を分け入っていくと、ちょっと開けた空間に黒い大型のチョウが低く飛翔し、パタッと地面に止まるのを見つける。しかし、止まったあたりに近づいても所在が全くわからない。一步踏み出すと突然足元からさーっと飛び出して、また5mほど先に降りるが、また姿を確認できない。これは、ぴったりと翅を閉じヨットが風を受けて傾いているように静止しており、翅の裏面が辺りの枯れ葉にそっくりなためだ。数回このような追っかけをしているうちに足先から30cmのところ止まってくれる。カメラのセットのために目を外していざ撮影しようとしたら、静止したあたりにいない！静止したあたりをくまなく探してやっと見つけてシャッターを押す。忍者の「隠れ身の術」を兼ね備えたチョウだ。



図1 クロコノマチョウ

このチョウはここで越冬する。また、この森の縁には食草のススキやジュズダマが成育しており、今後もこの忍者に会うことができそうだ。

ムラサキシジミの集団越冬 (*Arhopala japonica*)

前田 修

寒さが増した 12 月、林間の陽が全く当たらない寒々としたところにある背丈ほどのシュロの葉で集団越冬を始めていた。冷たい北風が葉を揺らすのが、彼らは全く動じない。

小春日和の日、トトロの森では陽だまりで主にカシ類の葉で翅を広げて日光浴をする姿を見かける。時々思い出したように薄暗い照葉樹を背景に陽の中を飛翔するが、その時のブルーの輝きは冬の寒さを忘れる美しさだ。幼虫の食樹はトトロの森ではどこにでもあるコナラ、クヌギ、アラカシなどブナ科。



図 2 集団越冬

チダケサシ (*Astilbe microphylla* Knoll)

大塚 隆廣

チダケサシはユキノシタ科の湿った場所を好む多年草。夏に 80cm の長い花茎を出し、上部の細長い円錐花序に薄紅色の花をつける比較的珍しい種だ。数年前、この森の流れの脇に羽状複葉の見覚えのある葉が他の草に埋もれるように生えているのを見つけ、夏にツンと伸びた花茎の頂部に花を確認、チダケサシと判明。

和名は食用として人気のチチタケ (チダケ) というキノコを採り、この茎にさして持ち帰ったことから「乳茸刺」だそう、なるほど茎には毛が密生している。



図 3 チダケサシ